

第11回国際トキシコロジー学会大会報告

熊本和正

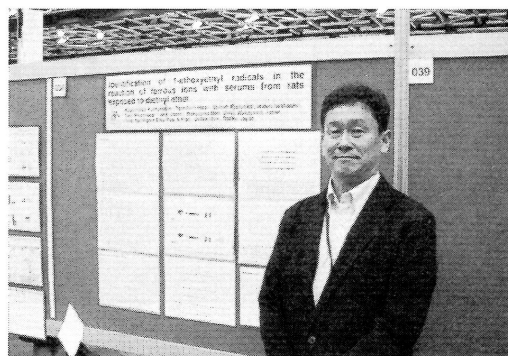
The XI International Congress of Toxicology (第11回国際トキシコロジー学会大会)は2007年7月15日より19日までカナダのモントリオール国際会議場で開催された。この学会大会は、ヒトや動物の生体に何らかのストレスやダメージを与えるものすべてが研究の対象に含まれており、化学、生化学、分子生物学、生物学、医学などのたくさんの分野が関連する大きな学会大会であった。会議の公用語は英語、プログラムなどはすべてフランス語と英語の併用であった。私の発表は、エーテル暴露（麻酔）したラット血清を用いた反応溶液中から検出されたエーテル由来ラジカルの同定について、という演題で大会三日目のポスターセッション「Oxidative Stress/Reactive Oxygen Species」(酸化ストレス/活性酸素種)

のグループであった。

貼り終えてポスター会場を回っているとき、目が合うとニコリして「どこから来たの、どんな発表？」と気軽に声をかけてくる人がいた。私の発表内容について説明すると、「わかった、あとで聞きに行くよ！」と嬉しそうにしていた。他の人たちにも「さあ勉強するぞ！」という明るく張り切った雰囲気を感じられ、国際学会大会の気持ち良さを味わうことができた。他にもこの学会大会のたくさんの講演、シンポジウムに参加した。さまざまな専門分野の研究者たちがさまざまな研究テーマに果敢にチャレンジしていることがよくわかった。きれいなモントリオールの街を歩いて会場に通い、さまざまな人種の人々を眺め、熱心な討論に聞き入った充実した学会出張であった。



会場になったモントリオール国際会議場



ポスター発表会場にて